

点滴がもれた患者さんへ

抗がん剤が血管の外にもれてしまうと、もれた部分の周囲の皮膚に痛みやかゆみ、ただれ等の症状がみられることがあります。また、このような症状が遅れてみられることもあるため、2～3週間は注意が必要になります。症状をやわらげるため、ご自宅に帰られた後も、以下の方法を行うことをおすすめします。なお、症状が悪くなっていると感じた時は、治療を受けている診療科外来にご相談ください。

今回使用した薬剤：

① 点滴した日から3日間、1日4回、1回15分程度、点滴がもれた周囲の皮膚を

□ 1) アイスノン（ベルト）や保冷剤などを薄いタオル等で包んで冷やしてください。

□ 2) 袋に入れ温めたタオルなどをタオルで包んで保温してください。

（お風呂のお湯の温かさ程度の温度。カイロは低温やけどの可能性があるので使用しないでください。）

※ いずれにおいても、直接皮膚に当てたり、圧迫しないように注意して、患部は安静にしてください。

② 軟膏が処方された場合は、点滴が漏れた周囲の皮膚の発赤が消失するまで、1日2回使用を続けてください。

※ 発赤がなくても1週間は使用してください。

連絡先：0476-22-2311

時間内：平日(8:30～17:00)

各診療科外来

時間外：平日(17:00～8時30分)、土日祝日

救急外来

